

にしあいづ物語100選 その95(その②)

文：田崎 敬修

会津戦争と農兵

慶応4年(1868)5月、郡役所から館原代官所に「獵師並びに撰人(農兵に選ばれた人)をはじめ全て出陣した者は出陣中に限り歩(夫)役を免除することを伝えるように」との通達が出ますが、それでも思うように集まらなかったようで今度はより具体的になります。7月、農兵は刀を持つことに加えて「食事の支給」「年2回の衣服の支給」「月2分の給金支給」があることの通達が軍事奉行から出されます。さらにこれとは別に村から補助金もあったようで、小川庄(津川方部)では農兵の選出方法や補助金の金額・支給方法についてそれぞれの村で決めています。野沢組でも同様であったようですが(上谷村・下谷村では選出方法は不明)、補助金の金額・支給方法は小川庄とは異なっています。

7月25日、野沢代官所から「村役人でなくても独身者で希望する者は別格である」との通達が出されます。同日、新政府軍の松ヶ崎浜・太夫浜(ともに新潟市)上陸が開始され戦況は緊迫の度を増してきました。そのような状況を受けて、特に獵師を1人でも多く集めようと、出陣中は2人扶を与えました。また、病気などの理屈をつけて逃れようとする者には厳しい罰を与えるというように半強制的になってきます。

農兵隊は代官所ごとに編成されたので隊の名称・数や人数などに違いが見られますが、一般的な隊の編成は司令部隊(この中に実戦部隊も含まれる)・実戦部隊と兵站(食料担当など)に分かれています。館原代官所管轄(慶応4年2月)では司令部隊(惣司隊)・実戦部隊・兵站(鼓角(陣中で使う鼓と角笛))役、纏高張(本営の纏や提灯を掲げる役)、人足、焚出方(調理役)、草鞋、医師計377人と人数が多くかなり詳細です。これは館原代官小川俊蔵が応戦準備のため津川方面の視察に行くほど大変積極的な代官であったためでしょう。野沢代官所管轄(慶応4年3月)では司令部隊(御代官様組、纏方)・実戦部隊(御用場様組)・兵站(兵糧方、飛脚撰人)計152人と少人数で簡素です。司令部隊には郷頭・有力肝煎などが顔を揃えます。実戦部隊の階級と人数は隊長(1人)・伍長(什長)(1人)・兵卒(10人程度)でした。野沢代官所は伍長ではなく什長という言葉を使っています。中国の三国時代(3世紀)に5人で伍、伍が2つの10人を什と数えたそうで薩摩軍でも使っています。

<待遇改善で募集>



夫役免除



<村役人以外もOK>

独身者



7月を迎え、いよいよ夏本番！
を感じる季節となりました。
外出時には帽子をかぶったり、こまめに水分補給するなど、熱中症対策をしっかりと行って元気に過ごしたいですね。
(三留)

先日、こども園や西会津小学校へ取材に行った時、たくさん元気な声に包まれ、改めてこの仕事のやりがいを感じました。子どもたちの元気がっぱいな笑顔に、こちらも自然と笑みがこぼれます。
また、地域の取材では、町民の皆さんから「お疲れ様！」「かつこよく撮ってね！」と声をかけてもらうことが増え、とても嬉しく思っています。



編集後記